

【暗証聖句】

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。」マルコ 8 章 36, 37 節

【日・恵みを得たノア】

日曜日の学びはノアが求められた人生の変革です。主なる神はノアの前に現れて次のように言われます。

創世記 6 章 13, 14 節 「神はノアに言われた。「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもタールを塗りなさい。」

誰もが知っているノアの物語です。ノアは神様から洪水が来ることを知らされ、大きな箱舟を造るようにと命じられます。これは人生の大変革を意味していました。今までの生活をすっかりやめてしまうことになるからです。

ある教会の男性がまだ小学生だったころ、両親が導かれて信仰を持つようになりました。すると父親は突然子どもたちに、「次の土曜日から、学校に行かなくても良い。代わりに教会に行く」と言ったのです。彼は、その時どれほど驚いたことかと思いつくように言っていました。ノアも家族も、今までの生活を止めて、新しい生活が始まるのでした。これはやはり大きな変革だったので。しかも、命の救いに直結する大変革だったので。

しかし、巨大な舟を造るためには、お金も時間もかかります。実際、箱舟が完成するまでに 120 年もの歳月を要することになったと言われています。それだけの時間をノアは、自分のしたいことに使うことをせず、ただ主の言葉に従い続けたわけ。結果的に、ノアは自分と家族の命を救うことになるわけですが、どれほどの忍耐と信仰が求められたことでしょうか。ノアの息子たちも同様です。しかも彼らは膨大なお金と時間と労力を費やただけではありませんでした。多くの人たちから嘲笑されたのです。その時代、雨は降ったことはなく、水は地から湧き出て、大地を潤していました。大洪水は愚か、天から雨が降ってくることさえあり得ないことだったので。確かに、人々の思い計ることが悪いことばかりでなかったなら、雨は降らず、地が洪水で飲み込まれてしまうこともなかったことでしょうか。ノアたちは、嘲笑に耐え、不信仰に陥ることなく、箱舟を造り続けることができたのは、主の言葉を信じ、主だけを見つめ続けたからです。神様から恵みを得る人は皆、犠牲が伴おうとも主だけを見つめ続け、従い続ける人たちなのです。

【月・信仰の父アブラハム】

月曜日の学びは、信仰の父と呼ばれるアブラハムの信仰と決断です。ノアと同様に、アブラハムも主に信仰の決断を迫られ、主の言葉に忠実に従った人物です。ある日、突然、主から「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい」(創世記 12 章 1 節)と言われるのです。行き先もわからず、そこに何があるのか、どのように生活していくのか、何も分からないまま、生まれ故郷を離れなければなりません。やはり、大きな決断が必要だったことでしょうか、生活が大きく変わるわけですから、人生の変革が求められたと言えるかもしれません。信仰の世界は、古い物との決別して新しい世界に足を踏み入れることです。古い物に継ぎ足していくことではないのです。アブラハムはどのようにして神様に従ったのでしょうか。それは主を信じる信仰でした。

ヘブライ 11 章 8 節「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです」

神様に従うには、神様は絶対に正しい方であり、良いことしかなさらない方であることを信じる信仰が必要です。信じて、一歩足を踏み出すのです。そのような信仰を見て、主は義と認めてくださるのです。ところで、アブラハムもイサクもヤコブも、約束の地を受け継ぐというところまではいきませんでした。それは後の世代が引き継ぐことになりました。しかし、約束のものをじかに見ることはできなくても、信仰でそれを見て喜び、神様のみ旨を生きていることに満足を得たのです。神様のご計画は壮大です。結果を焦ってはなりません。求められるのは常に忍耐と忠実さであり、そして、その中に伴う祝福は確かにあるのです。

【火・ロトの誤った決断】

火曜日の学びはロトの誤った決断についてです。アブラハムが故郷を離れ、主が示す地に旅立った時、甥のロトも一緒についてくるのです。しかしやがて、アブラハムの家畜を飼う者たちと、ロトの家畜を飼う者たちとの間で争いが起こるようになります。人数が多すぎることが大きな原因の一つだったので、アブラハムはロトと別れることにします。

創世記 13 章 9 節「あなたの前には幾らでも土地があるのだから、ここで別れようではないか。あなたが左に行くなら、わたしは右に行こう。あなたが右に行くなら、わたしは左に行こう。」

アブラハムはロトに好きな場所を選ばせます。本来であれば年長者であったアブラハムのほうが先に良い土地を選ぶのが自然かもしれませんが、アブラハムはこれまで自分で選んで旅をしてきたのではなく、主が導かれるまま旅をしてきたのです。その原則は、ここでも同様でした。それで、ロトが目を見て眺めると、ヨルダン川流域の低地一帯は、主の園のように、エジプトの国のように、見渡すかぎりよく潤っていたので、ロトはそこを選びます。ロトは主に祈ることもせず、見た目だけで判断したわけですが、これが思ってもみなかった悲劇を生む結果となるのでした。ロトを選んだヨルダン川流域の低地とは、ソドムと呼ばれる場所で、豊かな町でしたが、悪がはびこっており、やがて主の裁きを招くこととなります。その結果、多くの富を失い、大切な息子家族と妻まで失って、無一文で命からがら逃げだすことになるのです。私たちが同じ過ちを犯すことのないように注意したいものです。

#### 【水・欺く者から神のつかさへ】

水曜日の学びはヤコブの失敗と神の恵みについてです。ヤコブは神様を愛し、アブラハムに与えられ、長子の特権として受け継がれてきた民の祝福の基になりたいと願っていました。またこれは神様が母リベカに主が約束されていたことでもありました。ですから、忍耐して待っていれば、長子の特権を得ることができたはずでした。ところが、待ちきれなかったのか、人間的な思いが先立って、母と共に謀る形で兄エサウを罠にかけ、目がぼんやりとしか見えない父ヤコブに、自分はエサウだと嘘をつき、長子の特権を奪ってしまったのでした。その結果、兄エサウから怒りを買って、叔父のラバンのもとに逃げなければならなくなったのでした。神様の祝福は嘘をついてまで奪い取るようなものではありません。それがどれほど神様のためだとしても、そのような方法を神様はお喜びになりません。ヤコブは 20 年もの間、家に戻ることができなくなり、母リベカとも会うことができず、神様から砕かれて、謙遜を学ばされることになるのでした。しかし、神様は決してヤコブをお見捨てになったわけではありませんでした。ヤコブの橋で、主と格闘したとき、心から自分の愚かさを悔い、主のみ前に降伏したのでした。ももの骨がはずされて脆く格好とさせられたのは、象徴的でした。しかし、この砕かれた姿こそ、ヤコブの勝利だったのです。そして人を砕かれたものに作り変えることは、主の勝利でもあったのです。ヤコブは主に赦されただけでなく、「神の支配」を意味するイスラエルと名前が変えられたのでした。ヤコブの晩年は、エジプトで首相となった息子ヨセフによって幸せで豊かに暮らし、亡くなった後は、骨をアブラハムやイサクの骨が埋葬されているカナンのマクペラの畑にある洞穴に葬られたのでした。ロトと正反対に、ヤコブは無一文で家を出て、豊かになって帰って来たのでした。

#### 【木・エジプトでのモーセ】

木曜日の学びはモーセの決断についてです。40 年もの間、主のくすしき導きによってエジプトの王室で育ちました。何不自由のない生活でした。しかし、「モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選」(出エジプト 11:24、25)び、「キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考へ」(出エジプト 11:26)、「王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去」(出エジプト 11:27)ったのでした。ヘブライ人への手紙 11 章によると、それらすべてのことは、モーセの信仰によるものだったと強調されていることは重要なポイントです。主にに対する信仰が、このような思いや決断に至らせたということです。

私たちが人生の中で、信仰の決断が求められることが色々とあることでしょう。正しい決断をするためには、主にに対する信仰が必要です。主を愛し、主を第一としていくとき、聖霊が働いて、何が正しい判断なのかが自ずと分かってきます。そして、正しい決断ができるように、力を与え導いてくれます。長い人生をかけて、私たちはこのことを学んでいくのです。予定